

## おでかけアシストツアー事業

### 1. 事業実施団体

#### 【きりんのまち・愛プロジェクト（鳥取市）】

様々な困難を抱えた方・世帯を対象とした居場所づくりの支援として、平成27年12月に「きりんこども食堂」、令和5年4月から相談事業「まどぐちカフェ」の運営を行う。鳥取市地域食堂ネットワーク、鳥取市社会福祉協議会、岩倉地区公民館、民生児童委員などと連携し、単身高齢者、ひとり親家庭、障がいのある人など、困りごとを抱えながらも相談相手が身近にいない者と社会をつなぎ、互いに支え合う仕組みの構築を目指すボランティア団体。

### 2. 県の協働担当課

#### 【孤独・孤立対策課】

生活困窮者や老老介護、ひきこもり、ヤングケアラーなど、様々な困難に直面されている方やご家族に対して、市町村、事業者、民間支援団体等と連携して、孤独・孤立を防ぎ、必要な支援を推進する部署。

### 3. 課題及び目的

近年、地域では高齢化や単身者の増加、生活環境の変化などを背景に、人との関わりが減少し、孤独・孤立の状態に陥るリスクを抱える人が増加している。特に、外出に対する不安や負担感、一緒に出かける相手や目的が見つからないこと、体力・気力の低下や情報の不足といった要因により、外出機会そのものが減少し、社会との接点が失われていく状況が生じている。このような状況は、心身の健康状態の悪化や地域とのつながりの希薄化を招き、孤独・孤立の深刻化につながるおそれがある。

孤立者支援では対象者と支援者双方の信頼関係を結ぶことが重要であり、家庭訪問や食事を介してのアットホームな環境づくり、継続した支援を行うシステムの構築が必要とされる。このことから、安心して気軽に参加できる「おでかけアシストツアー」を実施し、外出への心理的・物理的ハードルを下げて社会参加への意欲を高め、孤独・孤立の予防や軽減につなげることを目的とする。

### 4. 課題解決の手法

#### （1）関係機関への事業説明、情報発信

- 福祉関係機関、地区公民館等と連携して、本事業の出前説明会を行う。
- 幅広い年齢層に向けて効果的に情報を届けるため、SNSや動画サイトの活用を検討する。

#### （2）「おでかけアシストツアー」の実施

- 主な対象は高齢者、不登校児とその保護者、ヤングケアラー、移住者等とする。（専門的な支援が必要とされる障がいのある方は対象外とする。）
- 民生児童委員や児童相談所、障害者支援施設等で相談業務などに携わった経験のあるスタッフが事前に家庭訪問を行い、健康状態の聴き取りやおでかけコースの紹介を行う。
- 集合場所は事務所又は指定場所、行先は自由、利用料無料とする。
- スタッフは2名体制（運転手、付き添い）とし、一緒にドライブや食事を楽しみ気分転換を図ってもらう。
- ツアー利用後に聴き取りを行い、感想やニーズの把握を行う。



利用者と近隣のスポットを散策

#### （3）既存事業と連携した相談支援

- 必要に応じて個別相談を行い、行政機関の相談窓口などへつなぐ。
- 実施団体の既存事業である「きりん子ども食堂」や「まどぐちカフェ」への自主参加を促し、社会参加の次のステップにつなげる。

### 5. 主な役割分担

#### 【事業実施団体】

- 自治体、関係機関への事業説明、SNS等を活用した情報発信
- ツアーの運営、相談対応
- 感想、ニーズなどを集約し、関係機関や県へ共有

#### 【行政】

- 事業運営に向けた助言
- 関係機関との連絡調整



食事をしながら会話を楽しむ

## 6. 取組と成果

### (1) 関係機関への事業説明、情報発信

- 各地区公民館、まちづくり協議会、鳥取市男女共同参画センター、鳥取中央児童相談所、福祉施設などで計 18 回事業説明を行った。
- 県及び市の関係機関と新たな対象者へのアプローチに向けた意見交換会を実施した。

(主な意見)

- 老人会加入者が減少している。本事業に老人会が協力することで、未加入者との接点を作ることができる。(鳥取市老人連合会)
- 公的機関、民間団体等との横断的な意見交換を通じて、現状把握と課題解決に向けた柔軟な対応が必要。引きこもりの方、ヤングケアラーの方に支援を呼び掛けても断られるケースが多く、定期的に対象者へ訪問できるスタッフの確保が求められる。(鳥取市社協、鳥取市地域福祉課、鳥取市中央人権センター)
- 他地域での展開につなげるため、アシストツアーのマニュアル及び事業紹介動画を作成して関係団体等に配布した。
- ラジオ、新聞、ニュース番組等で紹介され、広く事業周知を行うことができた。



利用者募集チラシ



マニュアル(一部)

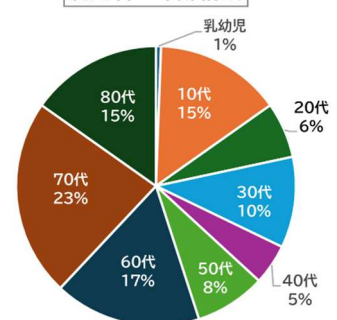
### (2) 「おでかけアシストツアー」の実施

- 事業実施期間中、月平均 8.4 回の利用があり、リピーターも一定数あった。

(参加者の状況)

- 一人暮らしに不安がある。外で一緒に食事ができてうれしい(60代男性)
- 病後の夫を気分転換に外出させたい(80代女性)
- 不登校、引きこもり傾向の子どもを外出させたい(10代の保護者)
- 子育てに不安があるが、近くに支えてくれる人がいない(30代夫婦)
- 親の介護疲れ、生活不安があり、相談を兼ねて利用した(60代夫婦)

利用者の年齢構成



<実施回数>

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   | 月平均 |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|
| 8  | 6  | 9  | 6  | 7  | 9  | 8   | 11  | 11  | 7  | 7  | 12 | 101 | 8.4 |

- 会話や食事を通じてスタッフとコミュニケーションが図られ、「また会いたい」「今度も参加したい」などの感想が寄せられた。また、「一人では行けなかった場所に行くことができた」という体験が利用者の自己肯定感を高め、外出のきっかけをつくり、次への社会参加につながっている。

### (3) 既存事業と連携した相談支援

- 子ども食堂を利用している引きこもり傾向の子どもにツアー利用を勧めたところ、中学生 1 名、高校生 2 名の参加につながった。
- 生活不安、育児や介護疲れなどに関する相談もあり、専門の相談窓口を紹介することができた。
- 利用者から「利用料を負担しても参加したい」との声があり、料金設定について検討を行う。

## 7. 事業終了後の状況

- 事業継続のため、利用料の設定や寄付を集めるなど運営費の検討を行った。現在は、弁当・飲み物付きで 1 回あたり 3 時間 5,000 円 (乗車場所から 20 km 圏内) で運営を行っている。
- こども食堂 (特に「相談型子ども食堂ムーミンのテーブル」(※))、まどぐちカフェ利用者のツアーへの誘導が有効であったことから、重点的に事業周知を行っている。
- 孤独・孤立者の把握は一事業者のみでは困難であり、県及び市の協力を得ながら、今後も引き続き関係機関等と連携して支援の方法について検討していく。

※毎週金曜開催。一家族ずつ利用できるこども食堂。スクールカウンセラー、臨床心理士、主任児童委員が参加して一緒に食事をしながら相談支援を行う。